

横浜市立権太坂小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・子どもが主体となって学び合い高め合う授業ができるように、重点研究を中心に子どもの「伝える力」の育成に重点を置いて、「伝える力」を増やしているような授業作りを工夫した。	・各クラスの授業の工夫によって「伝える力」を増やすことはできているが、自分なりに考えた意見をもったり、友達の意見を聞いてより高め合ったりする力の育成にも力を入れていく必要がある。	A ◎ C D
2 豊かな 心	・自他ともに大切にしている心情や態度を育成するために、道徳を核として、保土ヶ谷養護学校や近隣の幼稚園、保育園等との異校種交流、また縦割り活動等による異学年交流を行った。	・計画的に交流を行っているため、6年間かけて取り組むことへの見通しがもてている。子ども同士の関わりの中で、相手を思いやる気持ちが育っている。	◎ B C D
3 健やかな 体	・体力や柔軟性の向上のため、長縄、マラソンなどの朝の体力づくりや年間通してのストレッチ運動の日常化などを行った。また、学校保健委員会を中心として全校での保健指導、食指導が効果を上げている。	・クラスの友達と一緒に体を動かし、力を合わせることで、クラスの取り組みから個々の体力や柔軟性の向上につなげることができた。	A ◎ C D
4 特別支援 教育	・担任、特別支援コーディネーターと保護者とが連携して支援計画を作成し、全職員での支援を図るとともに、夏季休業中の特別支援研修会やスクールカウンセラーによるコンサルテーションを行った。	・特別支援コーディネーターが中心となって、保護者、担任、スクールカウンセラーがうまく連携することができた。コンサルテーションや特別支援研修会も有効に活用され、児童の支援に役立った。	◎ B C D
5 児童生徒 指導	・児童が落ち着いた学校生活を送れるようにするため、児童会が中心となつての全校挨拶運動や全職員が共通理解して指導に当たったための「権ルール」、YPAセサメント等を活用した。	・校内での挨拶は定着してきた。次は地域でも挨拶できるように、取り組みを続けていく。YPAセサメントを活用して実態把握からいじめなどの早期発見、早期対応につなげていく。	A ◎ C D
6 安全管理	・児童一人ひとりが自分の身を守るための防犯・防災意識を高めていくことができるように、それぞれの学年の発達段階に応じた防犯教室を計画的に実施したり、防災及び事故防止マニュアルによって組織的かつ迅速な対応ができるようにしたりした。	・従来4年生で実施していた、安全な自転車の乗り方講習を、次年度から3年生で実施しているよう、防犯教室の計画の見直しを行った。また、不審者対応のマニュアルも見直しして予定である。防災計画の見直しに伴い、緊急時対応を改正して保護者に配付する。	A ◎ C D
7 地域連携	・地域コーディネーターを中心として、調理実習や稲作り、昔遊びなど、地域の人材を活用した体験的な教育活動を行った。学習面でも社会や家庭科で地域の材を活用し、学びの充実を図った。	・地域の人材を活用することで、児童がたくさんの貴重な体験をすることができた。またそれらの活動を通して、児童が自分から進んで調べるなどの積極的な姿勢が見られた。	◎ B C D
8 人材育成 組織運営	・メンターチーム「権太塾」による授業研究会や授業力をつけるための研修会などを開催した。また主幹教諭を中心とした3部会の運営によって学校運営の効率化を図った。	・権太塾の活動によって若手教員が有意義な研修を多く積むことができた。3部会の運営は業務内容や役割分担の面でも少し効率化を図る必要がある。	A ◎ C D

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・学級内だけでなく、学年内、またメンターチームを中心とした研究への取り組みによって、自分なりの考えをもったり、友達の意見を聞いてより高め合ったりする力の育成に力を入れていった。	・子どもたちが生き生きと学ぶ姿が見られ、主体的に学ぶようとする意欲を伸ばすことができた。さらに伝える力や語彙力などを増やし、自分の意見を的確に伝えていくような支援をしていきたい。	A ◎ C D
2 豊かな 心	・縦割り活動については家庭からの評価も高く、子どもたちが自己有用感をもって学校生活を送ることに役立った。次年度は担当部署を代え、さらに充実した縦割り活動を行えるようにする。	・縦割り活動については家庭からの評価も高く、子どもたちが自己有用感をもって学校生活を送ることに役立った。次年度は担当部署を代え、さらに充実した縦割り活動を行えるようにする。	◎ B C D
3 健やかな 体	・体力づくりに関連させて中休みにクラスで長縄の練習をするなど、より発展的な取り組みを行った。また陸上及びバスケボールの特別クラブの活動もより充実して行った。	・取り組みの成果が体力テストの結果に表れており、特別クラブの加入率も上がった。しかし一方で二極化の傾向も見られ、保護者との連携による家庭での生活習慣の改善にも取り組む必要がある。	A ◎ C D
4 特別支援 教育	・担任、保護者、特別支援コーディネーター及びスクールカウンセラーが連携し、個に応じた指導ができるよう、特別支援教育総合センターや西部療育センターなどの各関係機関にも協力を仰ぎながら学習相談やコンサルテーションにつなげていった。	・担任、保護者、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラーに加え、養護教諭や管理職、主幹教諭も含め、職員全体として特別支援教育に携わってきたことが、保護者に大きな安心感を与え、つながりになった。	◎ B C D
5 児童生徒 指導	・挨拶運動と権ルールを二本柱として全職員が共通認識をもって児童指導にあたり、いじめ基本方針を活用していじめの早期発見、早期対応につなげたりと、児童が落ち着いた学校生活を送れるよう努めた。	・問題行動が起きたときは児童指導専任を中心に、担任、学年、保護者、管理職と連携をとり、全職員がチームとして事に当たるような体制作りが成された。次年度は改めて共通したルールの指導体制を整える必要がある。	A ◎ C D
6 安全管理	・有事の際、より安全に避難ができるよう、一年間の安全指導を通して防災マニュアルの見直しを行った。また、自転車の乗り方講習の実施学年を4年生から3年生に変更する、移行期間としての取り組みを行った。	・交通安全教室の実施方法について、関係機関との連絡、調整に課題があるので、より円滑に連携がとれるよう努める。また、改訂した防災マニュアルがうまく運用できるよう、次年度の避難訓練を通して全職員の共通理解を図る。	A ◎ C D
7 地域連携	・今まで各担任がそれぞれ行ってきた、地域の材をいかした授業作りについて、学校全体の共有財産として全職員が有効活用しやすいよう、データ化を行った。	・「学校が地域に何かしてもらおうこと」が多かったが、これからは逆に「学校が地域に向けてできること」を考え、実行していくようにする。	◎ B C D
8 人材育成 組織運営	・メンターチーム「権太塾」では授業研究会や研修会に加え、お互いの教室の工夫を見合ったり、意見交換会を行ったりと、より充実した活動を行ってきた。	・権太塾の活動は大変好評で、授業力の向上だけでなく、チームでの取り組みも組織としての学校運営に役立っている。次年度はより効率的に活動が行えるよう、時間の設定等に配慮する。	◎ B C D

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・子どもが主体となって学び合い高め合う授業ができるよう、的確に自分の意見を伝えたり友達の意見をもらえたりする手段としての「伝える力」や「語彙力」などをさらに増やしていく取組を行った。	・子どもたちが主体となって学習活動を考える、学びを深める場面が多かった。「伝える力」「語彙力」の習得に関しては不十分な点があるため、より具体的な取組方法によって習得を目指す。	A ◎ C D
2 豊かな 心	・自尊感情を育て、自他ともに大切にしている心情や態度を育てるため、新たな担当部署によりさらに充実した縦割り活動の計画・運営を進めるとともに、様々な体験活動によって育まれた「豊かな心」を、学校生活全般にいかしていけるよう支援してきた。	・充実した縦割り活動により、他学年同士の交流が増え、高学年が低学年の面倒を見たり、低学年が高学年の姿にあこがれたりといった相乗効果が見られた。ただ、回数が多すぎるとの反省もあったので、ねらいを明確化したうえでスリム化していく。	◎ B C D
3 健やかな 体	・体力向上の二極化解消のため、保護者とも連携して、早寝早起きや毎日の朝食等、生活習慣の改善に取り組むとともに、朝や休み時間等を活用した体力向上の取り組みをさらに進めていく。	・生活チェックカレンダーの取組によって、早寝早起きや毎日の朝食などの実態を把握することができた。保護者も巻き込むことで、意識の高まりにもつながった。これは次年度にも継続して取り組む。	A ◎ C D
4 特別支援 教育	・特別支援コーディネーターが中心となりながら、担任、保護者、スクールカウンセラーに加え、養護教諭や管理職、主幹教諭も含め、職員全体として特別支援教育に携わり、児童や保護者の困り感を軽減していけるよう努めてきた。	・教育相談や特別支援コーディネーターへの相談などが徐々に保護者に認知され、適切に対応できている児童が増えている。今後はさらに保護者との関係づくりを進め、支援や配慮が必要な児童が適切な指導・治療・相談等を受けられる機会を逃さないようにしていく。	◎ B C D
5 児童生徒 指導	・校内だけでなく、地域にも向けた挨拶運動を展開し、児童の挨拶をする習慣を定着させていくとともに、権ルールを活用し、教職員が共通理解をもって児童指導にあたり、児童の落ち着いた学校生活を確保できるよう努めてきた。	・挨拶運動の取組によって、校内での挨拶はだいたいできるようになってきたが、地域の方々に向けてはまだ不十分であるのでさらなる取組について考えていく。権ルールは目に見える形で児童及び保護者に提示していく必要がある。	A ◎ C D
6 安全管理	・改訂した防災マニュアルがうまく運用できるよう、様々な状況を想定した避難訓練を実施する中で、全職員の共通理解を図るとともに、各関係機関とも連携してより効果的な安全教育を進め、児童の防災、防犯意識を育てていくよう努めてきた。	・年間を通しての避難訓練の回数や内容が不十分だったので、マニュアルを大きく見直した。特に他校と連携して行う避難訓練を新たに設け、実際の災害時により近いと思われる状況を想定して訓練を行えるようにしていく。	A ◎ C D
7 地域連携	・過去の取り組みも活用しながら、地域の材をいかした授業作りを行うとともに、学校から地域に向けて発信できることについても実施し、地域連携をより深められるよう努めてきた。	・地域コーディネーターを中心に適任のボランティアの方々をすぐに募っていたが、体験的な授業に活用している。今後は学校から地域へ発信していく取組をより進めていきたい。	◎ B C D
8 人材育成 組織運営	・メンターチーム「権太塾」によって若手教員の授業力や学級運営力を高めるよう努めてきた。またより効率的に学校運営を進めていけるよう、教務部が中心となって職員の業務分担の明確化に努めてきた。	・権太塾は大変成果があった。今後も充実した研修を進めていく。また校内組織については、まだ明確になっていない部分があったので、より効率的に業務を進められるよう、業務分担を明確化する。	◎ B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・小中合同授業研究会では、各校での授業の取り組みや児童の実態などの情報交換に始まり、今後各教科・領域部会として連携していかなくてはならないとの確認、小中一貫カリキュラムの見直しについての話し合いがなされ、「権太坂・境木地区の子どもたちの理解と学力向上」を進めるのに役立っている。また、様々な児童・生徒交流を通し、境木小・権太坂小両校の児童及び小学生と中学生との関わりを深めることができ、小学6年生から中学1年生へ、スムーズに上がっていくための有効な手立てとなっている。一方で依然として小学校間・中学校間での指導の重点の置き方の違いも見受けられ、小学校から中学校へ、また中学校から小学校への要望も何点か挙げられている。今後も情報交換を密に行い、ブロック内での連携をより深めていく必要がある。
学校関係者 評価結果	・学校だよりや学年だよりによって学校で行われていることを家庭に伝えたり、子どもが自分の体験したことを家で話したりしていることで、保護者が学校での取り組みをよく理解しており、保護者と学校がとても近い関係にある。また朝会や避難訓練などで整列している時に、子どもが静かにきちんと並んでいるのが素晴らしい。普段からの指導により基本的な生活習慣が身につけているなどの評価を得ることができた。
評価結果に 対する 学校の見解	・地域の人材の活用や近隣校との交流、異学年との交流等を通して、体験的な活動を多く取り入れるために、児童はそこから多くのものを学び取り、自分たちで考える力がついてきている。一方で、小中連携にはまだ解決していくべき課題も多く残されている。今後も地域全体で子どもを育てていくという視点に立ち、保護者、学校、地域がしっかりと連携をとっていかなくてはならない。

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・小中合同授業研究会に関しては、運営の仕方や時間の設定等にまだ課題が残されており、今後担当者を中心により効果的な研究会を行っているよう、工夫していく必要がある。小中一貫カリキュラムについても、実際に活用しているよう、より研究を重ねて見直ししていかなくてはならない。児童、生徒交流については工事などの都合で実施できなかったものもあったが、新たに行ったものもあり、小学6年生から中学1年生へ、スムーズに上がっていくような取り組みを工夫した。次年度は今年度行えなかったものについても改めて取り組んでいきたい。教職員間の情報交換はより密に行うことができ、同じ小中一貫教育推進ブロックのメンバーとして、連携を深めることができた。
学校関係者 評価結果	・中学校では保健室登校をしている生徒が増加しているが、小学校でもその傾向が見られ始めているので、より児童が安心して学校生活を送れるよう、図書室なども児童がワンクッションおいて教室に向かえるような場所になるとよい。その際、次年度担当される学校司書が担う役割が期待される。また、放課後に高学年の児童が低学年と遊ぶ姿が見られるなど、学校での「豊かな心」の育成の成果はあらゆるところに表れてきている。それと同時にルールの徹底についても、地域と連携していかなくてはならない。
評価結果に 対する 学校の見解	・縦割り活動や異校種交流、そして地域の材を活用した体験的な活動等が本校の強みである。その強みをいかして、今後も児童の「豊かな心」を育てていくとともに、ルールの徹底や挨拶の励行など、課題となっている部分の改善につなげていきたい。また、地域から恩恵を受けるだけではなく、学校として地域に向けて発信できることを発信し、お互いに支え合っていくことこそが真の「地域との連携」であると考え、それに向けて取り組んでいきたい。

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・小中合同授業研究会に関しては、回数も増え、3校の情報交換の場として有効に活用されている。しかし一方で、児童生徒の学力向上への取組に直結していないという反省もあった。同時に小中一貫カリキュラムについても、学習指導要領の改訂が近づくと、大幅な見直しが必要とされる。小中一貫教育の推進が、交流だけでなく、児童生徒の学力向上にもつながるよう、3校で協力しながらより効果的な取組について考え、それを実行していかなくてはならない。児童、生徒交流については、中学校の吹奏楽部がそれぞれの小学校で演奏会を行うなど、今までより充実した取組を行うことができた。
学校関係者 評価結果	・運動会の組体操について、まずは安全が第一であり、無理を押しつけてまでやるものではない。短い準備期間の中だけでやるのではなく、前の学年で培ってきたものをいかした演技をするべきである。また挨拶については、子どもができないのは家庭でどのように育てていないからである。最近の社会事情で幼い時から保育園で過ごす子どもが多い。それによって親との関わりが少ない子が増えている。PTAで保護者に呼びかけていく必要がある。学校の施設設備について、体育館の壁が穴だらけになっているなど、古いままのところが多い。開校40周年も近いが、ソフト面だけではなくハード面でも新しくしていく必要がある。
評価結果に 対する 学校の見解	・児童の学力向上に向けて、校内だけでなく小中一貫教育としてもより具体的な方策によって取組を進めていかなくてはならない。また地域の協力を得ながら、保護者も共に行う教育を推進し、学校、保護者、地域の3者が連携して子どもを育てていけるようにしていきたい。その第一歩が学校でも、家でも、地域でも、しっかりと挨拶のできる子どもの育成であり、そこから生活リズムやルールの定着といった課題にもつながっていききたい。

学校運営 中期目標 達成状況	・地域の材を活用したり、近隣校や異校種、異学年との交流を行ったりといった体験的な活動を通して、児童の考える力、伝え合う力はだんだんと育ってきた。また、YPAセサメントにも児童実態の把握や、特別支援コーディネーターを中心としたスクールカウンセラーとの連携も活用した特別支援教育の充実等により、児童一人ひとりが落ち着いて学校生活を送れるよう、今後も教職員が共通理解を図って児童の指導及び支援にあたっていく必要がある。
----------------------	--

学校運営 中期目標 達成状況	・「伝えあう力の育成」や「自他ともに大切にしている心情や態度の育成」「体力の向上」等は様々な教育活動を通して達成されつつある。とは言えまだまだ課題が残されている部分もあるので、さらなる充実を目指していく必要がある。一方で「挨拶や権ルールの定着」については、もう一度全職員で一致団結して取り組んでいく体制を整え、児童が安心して落ち着いた学校生活を送れるような環境作りを進めていかなくてはならない。また、地域との連携も、より充実したものにしていけるよう、今までの取り組みをうまくいかしながら進めていきたい。
----------------------	---

学校運営 中期目標 達成状況	・大変協力的な地域との連携もあって、多くの体験的な活動を通し、子どもたちは「豊かな心」や「健やかな体」を育むことができてきた。またメンターチーム「権太塾」の取組によって、若手教員の授業力や指導力も身に付いてきている。3年間の中期目標として重点的に取り組んできた成果として、学校が目指す子どもの姿を実現していくための基盤はできつつあるように思う。今後はそれをさらに推し進め、「確かな学力」や「挨拶やルールの定着」といった課題に対する取組につなげていきたい。
----------------------	---

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要